

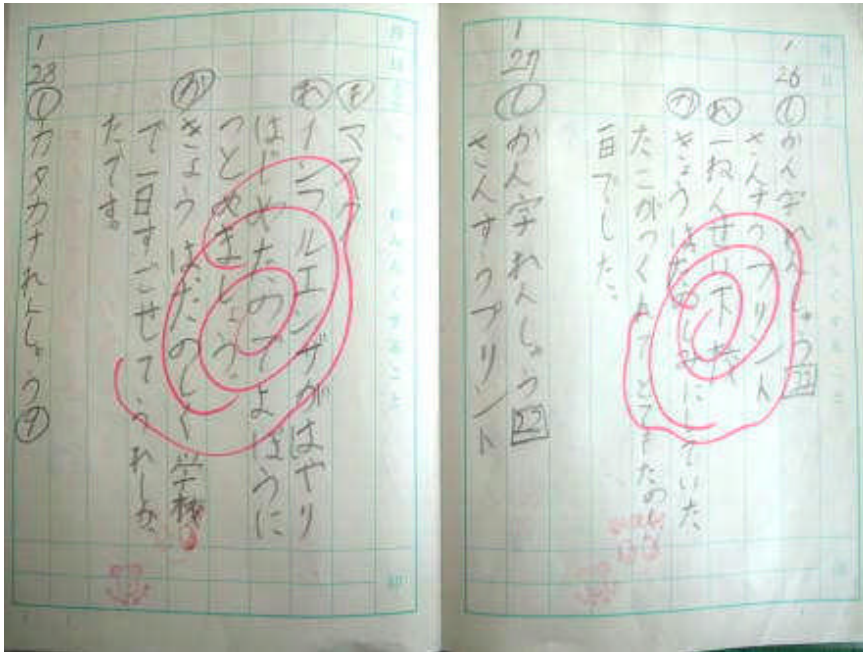
1. 実践内容（低学年ブロック）

低学年児童は学習の入門期ということで、書くことにも慣れておらず、語彙もまだ少ない。物事を見る目も育っていないため、生活科と関連しながら語彙を増やしたり、各教科や朝の会などでスピーチや学習感想を積み重ね書くことに慣らせたりしていきたい。

< 日常の取組 > ・朝の会での日直のスピーチ

- ・連絡帳への一言感想
- ・帰りの会での「よかったこと・楽しかったこと」のスピーチ
- ・生活科の観察カード
- ・読書・読み聞かせ
- ・国語科や算数科での学習感想

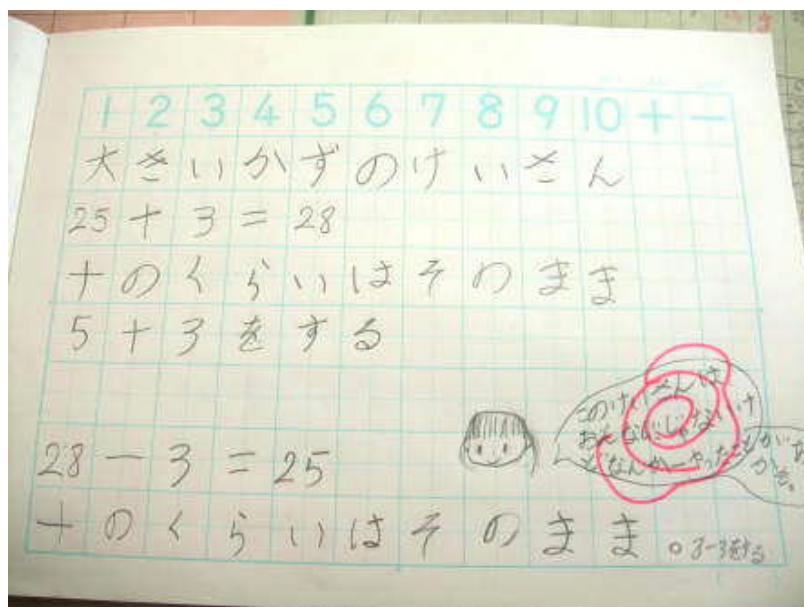
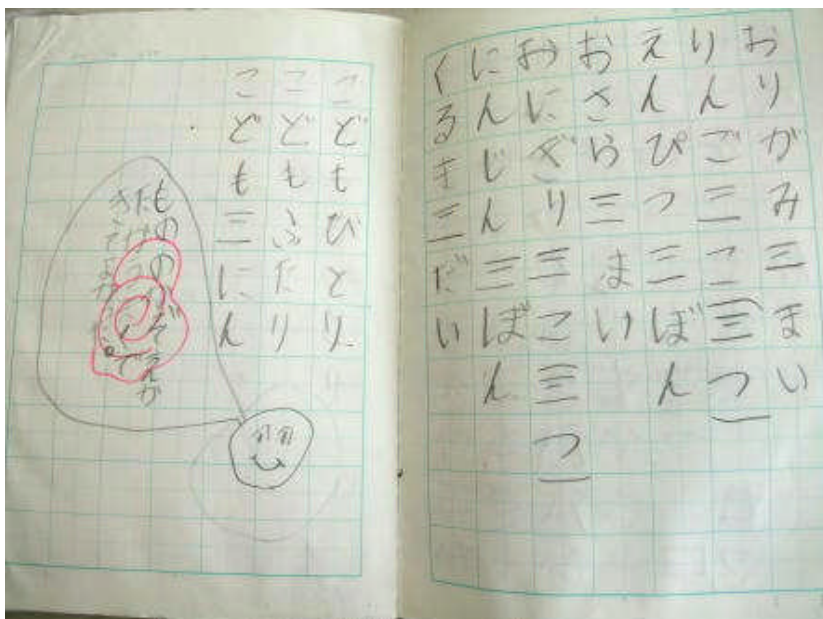
【連絡帳への一言感想】



最初は、「楽しかったこと」というテーマで一斉に指導を行った。書き始めた頃は一文であったり、自分のことを中心に書いたりしていたが、徐々に長文になり、友だちや周囲のことも詳しく書けるようになってきた。また、書く題材も自分で見つけられるようになってきた。この一言感想は、担任だけでなく保護者も読むので、子どもたちは読み手を意識して書くことができるようになってきている。

書く能力に個人差はあるが、毎日続けることで子どもたちは書くことへの抵抗感がなくなっているように思う。

【国語科・算数科の学習感想】



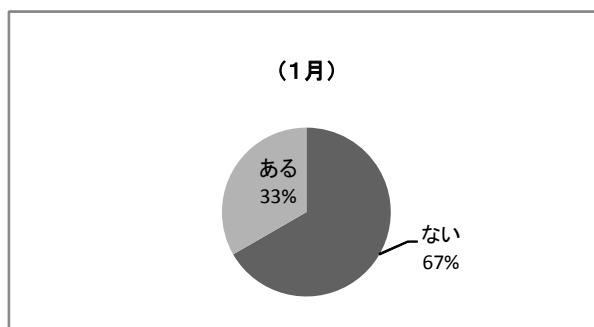
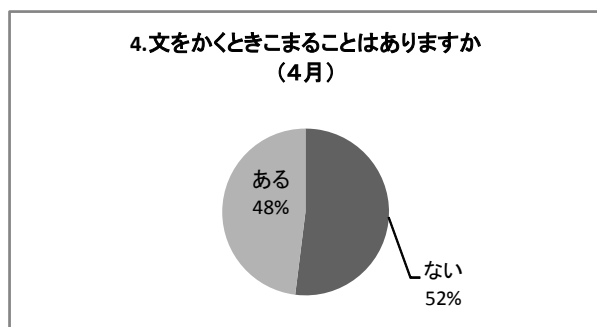
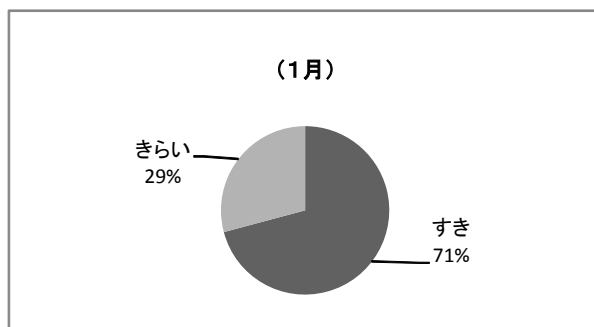
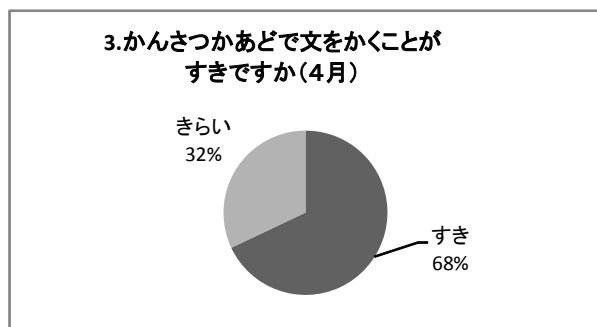
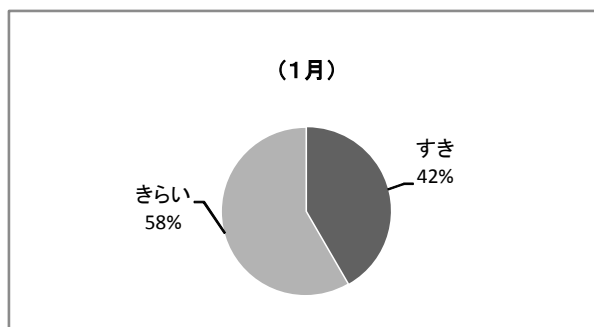
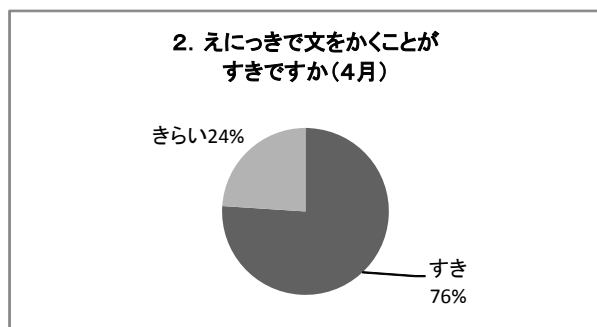
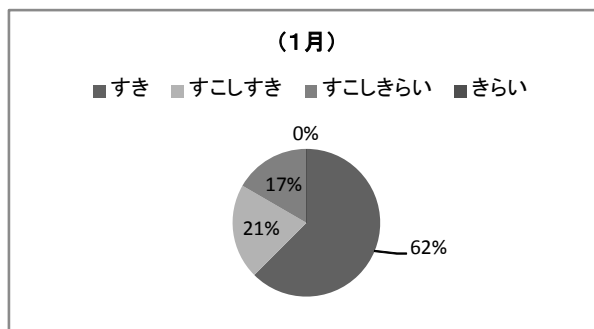
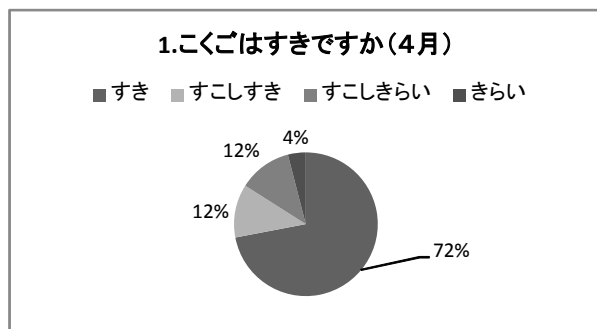
一学期から学習感想を書き始めたが、一学期はフェイスマーク（「ニコニコの顔・普通の顔・泣き顔」）を使って表現してきた。楽しかったら「ニコニコの顔」、普通だったら「普通の顔」、難しかったり分からなかったら「泣き顔」で表してきた。

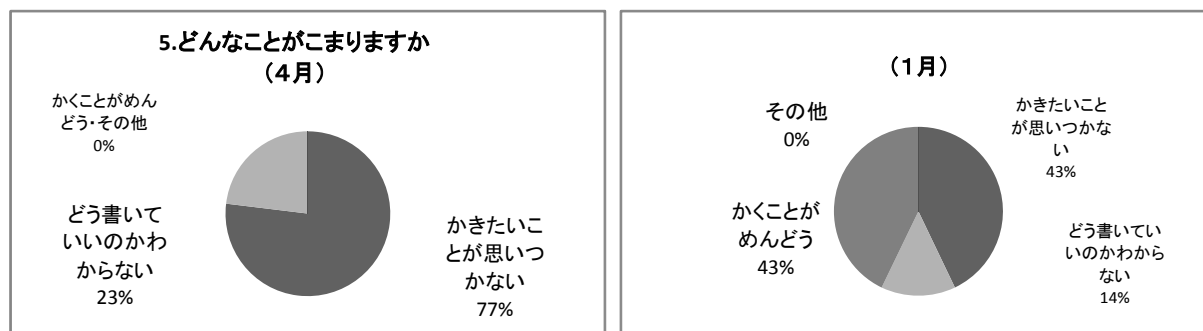
二学期になり、フェイスマークに吹き出しをつけ、吹き出しの中にその時の感想を書くように指導した。最初は「楽しかった。」「よく分かった。」と一言だけの感想であったが、

「その時間のめあてに対してどう思ったか？」と教師が投げかけることで、「～について分かった。」「～が難しかった。」と感想の内容もめあてに沿ったものになり、文章が長くなってきた。また、書くスピードも上がり、学習感想を書くことに慣れてきた子どもが多くなってきたと感じる。

書く力に個人差はあるが、今後も学習感想を継続し、少しずつ「友だちの考えの良いところ」「友だちと自分の考えの違い」なども書けるように指導していきたい。

2. アンケートより





4月と1月のアンケート結果を比較して、国語を嫌いと答える児童が一人もいなくなったのは、成果だと考えられる。絵日記をかく活動に人気が無くなったようだが、文を書くことが好きな児童や、文を書くことに困る児童が減ったことを見ると、文章を書くことに対して抵抗は少なくなっていると考えられる。困っていることで、書くことがめんどろと答える児童が増えたが、書いたら必ず見直しをするなど、文を書く活動の質が向上しているため、気軽に「書けた」とは言いづらくなっているのかもしれない。国語が好きな理由にも、単純な活動の楽しさだけでなく、先生の話を理解する楽しさや、友達に自分の意見を聞いてもらえる楽しさなど、楽しさのレベルも上がってきた結果だと考える。

3. 成果と課題

<成果>

- ・国語科の学習で発表の仕方を学んだり、朝の会でのスピーチを重ねたりすることで、クラス全員の前で抵抗なく話をするできるようになってきた。国語科で様子を表す言葉や気持ちを表す言葉を学習することで、少しずつ語彙も増え、長くスピーチもできるようになってきた。
- ・子どもたちは、連絡帳への一言感想を書くことが習慣となり、学校の様子も保護者へ伝わっている。
- ・生活科では書く視点を与えることで、意欲的に観察カードを書けるようになってきた。

<課題>

- ・「書くこと」に継続的に取り組むことで、子どもたちは書くことに慣れ、抵抗なく書けるようになってきた。ただ、書く力には個人差があり、限られた時間の中で個々に応じた指導を効果的に行うには、どうしたらよいかが難しかった。
- ・助詞の使い方、主述、句読点の使い方については定着しつつあるが、今後も継続的に取り組んでいきたい。